

校種・教科等	高校・地歴 (地理)	受審番号	氏名
--------	---------------	------	----

『地理総合』 模擬授業課題

(1) 日 時 令和6年6月〇日 第〇校時(50分)

(2) 場 所 1年1組教室

(3) 学年・学級 第1学年1組(40名) 使用教科書『私たちの地理総合 世界から日本へ』(二宮書店)

(4) 単 元 名 2章「生活文化の多様性と国際理解」 1節「自然環境と生活文化」

(学習指導要領:大項目B「国際理解と国際協力」 中項目(1)「生活文化の多様性と国際理解」)

(5) 指導する児童(生徒)の状況

【既習事項】

○ 中学校社会の地理的分野の学習を通して、地理的な内容や技能を活用することや、地理的な見方・考え方を働かすことができるようになっている。

【単元のねらい】

○ 場所や人間と自然環境との相互依存関係などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のような知識を身に付けさせる。

- ・ 熱帯の人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解させる。
- ・ 熱帯の人々の生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解させる。

○ 熱帯の人々の生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現させる。

【児童(生徒)の状況】

○ 進路希望調査では、4年制大学希望と答えた生徒の割合が80%(32名)である。

○ 年度当初のアンケートで、「地理が好き」「どちらかといえば好き」と答えた生徒が25%(10名)、「普通」と答えた生徒が55%(22名)と学習意欲は比較的高い。発問に対して、積極的に考えたり発言したりすることができる。

○ ペアやグループでの活動を苦手とする生徒は7.5%(3名)であるが、取り組むことはできる。

(6) 指導計画(全8時間)

時間	テーマ	学習内容
1時間目	1 地球上の地形のなりたち	■活発に動き続ける大地 ■地球内部からはたらく力 ■プレート境界と地形 ■地形を外から変える力
2時間目	2 山地と平野の生活	■山地での暮らし ■平野での暮らし ■河口部での暮らし
3時間目	3 海岸部の生活	■海岸にみられる地形 ■砂浜海岸での暮らし ■岩石海岸での暮らし ■海岸の人工改変
4時間目	4 地球上の気候の成り立ち	■気候の違いと生活 ■大気の大循環 ■さまざまな気候の違い
5時間目	5 暑い気候に対応した生活 (本時) p58～59	■熱帯での生活 ■熱帯の気候の特徴 ■熱帯雨林気候の自然と生活 ■サバナ気候の自然と生活
6時間目	6 乾燥した気候に対応した生活	■乾燥帯での生活 ■乾燥帯の気候の特徴 ■砂漠での生活ーサウジアラビアを例に ■草原での生活ーモンゴルを例に
7時間目	7 季節の違いに対応した生活	■大陸西岸の気候の特徴 ■大陸西岸の生活 ■大陸東岸の気候の特徴 ■大陸東岸の生活
8時間目	8 寒冷な気候に対応した生活	■寒極での生活 ■亜寒帯・寒帯の気候の特徴 ■シベリアの亜寒帯の自然と生活 ■シベリアの寒帯の自然と生活

【課題】 次のア～ウの視点を踏まえたうえで、指導計画の太線で囲まれた授業について、模擬授業を行う。

ア 授業者による「本時の問い」の設定

イ 本時の授業における学習活動や学習形態

ウ 本時の授業における学習評価の見取り

※ 評価の3観点 … ① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度

●面接終了後、メモ用紙とともにクリアファイルに入れて提出してください。

校種・教科等	高校・地歴 (地理)	受審番号	氏名
--------	---------------	------	----

『地理総合』 模擬授業課題

B

(1) 日 時 令和6年6月〇日 第〇校時(50分)

(2) 場 所 1年1組教室

(3) 学年・学級 第1学年1組(40名) 使用教科書『私たちの地理総合 世界から日本へ』(二宮書店)

(4) 単 元 名 2章「生活文化の多様性と国際理解」 1節「自然環境と生活文化」

(学習指導要領・大項目B「国際理解と国際協力」 中項目(1)「生活文化の多様性と国際理解」)

(5) 指導する児童(生徒)の状況

【既習事項】

○ 中学校社会の地理的分野の学習を通して、地理的な内容や技能を活用することや、地理的な見方・考え方を働かすことができるようになっている。

【単元のねらい】

○ 場所や人間と自然環境との相互依存関係などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のような知識を身に付けさせる。

- ・ 乾燥帯の人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解させる。
- ・ 乾燥帯の人々の生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解させる。

○ 乾燥帯の人々の生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現させる。

【児童(生徒)の状況】

○ 進路希望調査では、4年制大学希望と答えた生徒の割合が80%(32名)である。

○ 年度当初のアンケートで、「地理が好き」「どちらかといえば好き」と答えた生徒が25%(10名)、「普通」と答えた生徒が55%(22名)と学習意欲は比較的高い。発問に対して、積極的に考えたり発言したりすることができる。

○ ペアやグループでの活動を苦手とする生徒は7.5%(3名)であるが、取り組むことはできる。

(6) 指導計画(全8時間)

時間	テーマ	学習内容
1時間目	1 地球上の地形のなりたち	■活発に動き続ける大地 ■地球内部からはたらく力 ■プレート境界と地形 ■地形を外から変える力
2時間目	2 山地と平野の生活	■山地での暮らし ■平野での暮らし ■河口部での暮らし
3時間目	3 海岸部の生活	■海岸にみられる地形 ■砂浜海岸での暮らし ■岩石海岸での暮らし ■海岸の人工改変
4時間目	4 地球上の気候の成り立ち	■気候の違いと生活 ■大気の大循環 ■さまざまな気候の違い
5時間目	5 暑い気候に対応した生活	■熱帯での生活 ■熱帯の気候の特徴 ■熱帯雨林気候の自然と生活 ■サバナ気候の自然と生活
6時間目	6 乾燥した気候に対応した生活 (本時) p60～61	■乾燥帯での生活 ■乾燥帯の気候の特徴 ■砂漠での生活ーサウジアラビアを例に ■草原での生活ーモンゴルを例に
7時間目	7 季節の違いに対応した生活	■大陸西岸の気候の特徴 ■大陸西岸の生活 ■大陸東岸の気候の特徴 ■大陸東岸の生活
8時間目	8 寒冷な気候に対応した生活	■寒極での生活 ■亜寒帯・寒帯の気候の特徴 ■シベリアの亜寒帯の自然と生活 ■シベリアの寒帯の自然と生活

【課題】 次のア～ウの視点を踏まえたうえで、指導計画の太線で囲まれた授業について、模擬授業を行う。

ア 授業者による「本時の問い」の設定

イ 本時の授業における学習活動や学習形態

ウ 本時の授業における学習評価の見取り

※ 評価の3観点 … ① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度

●面接終了後、メモ用紙とともにクリアファイルに入れて提出してください。

校種・教科等	高校・地歴 (世界史)	受審番号	氏名
--------	----------------	------	----

『歴史総合（世界史）』 模擬授業課題

- (1) 日 時 令和7年1月〇日(〇) 第〇校時(50分)
 (2) 場 所 1年1組教室
 (3) 学年・学級 第1学年1組(40名) 使用教科書 『詳解歴史総合』(東京書籍)

- (4) 単 元 名 第3章「グローバル化と私たち」 2節「冷戦と世界経済」
 (学習指導要領:大項目D「グローバル化と私たち」中項目(2)「冷戦と世界経済」)

(5) 指導する生徒の状況

【既習事項】

大項目A「歴史の扉」から大項目D「グローバル化と私たち」中項目(1)「グローバル化への問い」まで学習済み。

【単元のねらい】

諸資料を活用して、日本とその他の国や地域の動向とを比較したり、相互に関連付けたりするなどして、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを考察したりして、国際政治の変容を理解できるようにすること、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを考察したり表現したりして、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解できるようにすることをねらいとしている。

【生徒の状況】

国公立大学進学希望者が多い普通科の1年生 40名。年度当初のアンケートでは、中学校段階の歴史分野の学習内容については、ほぼ全員が「理解できている」と回答しているが、年度中盤のアンケートでは、やや苦手意識を持った生徒が見られ、その大半が理由として「暗記が苦手」と回答している。

地理総合と並行して履修しており、2年次以降は地理探究、日本史探究、世界史探究のいずれかを履修する予定。

(6) 指導計画(全8時間)

時間	主題	学習内容
1時間目	1 冷戦の拡大と第三勢力 (本時、168・169 ページ)	<ul style="list-style-type: none"> ■冷戦下の対立と共存 ■第三勢力の台頭
2時間目	2 キューバ危機と核兵器の管理	<ul style="list-style-type: none"> ■核開発競争と宇宙開発競争 ■キューバ危機と核兵器の管理
3時間目	3 脱植民地化の進展と地域紛争	<ul style="list-style-type: none"> ■アジア・アフリカにおける脱植民地化と地域紛争 ■南アジアの地域紛争 ■アフリカ諸国の独立 ■中東における脱植民地化と冷戦の影響
4時間目	4 計画経済と開発	<ul style="list-style-type: none"> ■社会主義国の計画経済と西側先進国の福祉国家化 ■開発途上国の経済政策と開発援助
<div style="border: 1px solid black; padding: 20px; width: fit-content; margin: auto;"> <p style="font-size: 24px; margin: 0;">以 下 省 略</p> </div>		

【課題】次のア～ウの視点を踏まえたうえで、指導計画の太線で囲まれた授業について、模擬授業を行う。

ア 授業者による「本時の問い」の設定

イ 本時の授業における学習活動や学習形態

ウ 本時の授業における学習評価の見取り

※評価の3観点・・・①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

●面接終了後、メモ用紙とともにクリアファイルに入れて提出してください。

『歴史総合（世界史）』 模擬授業課題

(1) 日 時 令和7年1月〇日(〇) 第〇校時(50分)

(2) 場 所 1年1組教室

(3) 学年・学級 第1学年1組(40名)

使用教科書 『詳解歴史総合』(東京書籍)

(4) 単 元 名 第3章「グローバル化と私たち」 2節「冷戦と世界経済」

(学習指導要領:大項目D「グローバル化と私たち」中項目(2)「冷戦と世界経済」)

(5) 指導する生徒の状況

【既習事項】

大項目A「歴史の扉」から大項目D「グローバル化と私たち」中項目(1)「グローバル化への問い」まで学習済み。

【単元のねらい】

諸資料を活用して、日本とその他の国や地域の動向とを比較したり、相互に関連付けたりするなどして、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを考察したりして、国際政治の変容を理解できるようにすること、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを考察したり表現したりして、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解できるようにすることをねらいとしている。

【生徒の状況】

国立大学進学希望者が多い普通科の1年生 40名。年度当初のアンケートでは、中学校段階の歴史分野の学習内容については、ほぼ全員が「理解できている」と回答しているが、年度中盤のアンケートでは、やや苦手意識を持った生徒が見られ、その大半が理由として「暗記が苦手」と回答している。

地理総合と並行して履修しており、2年次以降は地理探究、日本史探究、世界史探究のいずれかを履修する予定。

(6) 指導計画(全8時間)

時間	主題	学習内容
1時間目	1 冷戦の拡大と第三勢力	<ul style="list-style-type: none"> ■冷戦下の対立と共存 ■第三勢力の台頭
2時間目	2 キューバ危機と核兵器の管理 (本時、170・171 ページ)	<ul style="list-style-type: none"> ■核開発競争と宇宙開発競争 ■キューバ危機と核兵器の管理
3時間目	3 脱植民地化の進展と地域紛争	<ul style="list-style-type: none"> ■アジア・アフリカにおける脱植民地化と地域紛争 ■南アジアの地域紛争 ■アフリカ諸国の独立 ■中東における脱植民地化と冷戦の影響
4時間目	4 計画経済と開発	<ul style="list-style-type: none"> ■社会主義国の計画経済と西側先進国の福祉国家化 ■開発途上国の経済政策と開発援助
以下省略		

【課題】次のア～ウの視点を踏まえたうえで、指導計画の太線で囲まれた授業について、模擬授業を行う。

ア 授業者による「本時の問い」の設定

イ 本時の授業における学習活動や学習形態

ウ 本時の授業における学習評価の見取り

※評価の3観点・・・①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

●面接終了後、メモ用紙とともにクリアファイルに入れて提出してください。

校種・教科等	高校・地歴 (日本史)	受審番号		氏名	
--------	----------------	------	--	----	--

『歴史総合（日本史）』 模擬授業課題

A

- (1) 日 時 令和6年7月〇日 第〇校時(50分)
 (2) 場 所 1年2組教室
 (3) 学年・学級 第1学年・2組(35名) 使用教科書 『詳解歴史総合』(東京書籍)
 (4) 単 元 名 大項目B「近代化と私たち」 中項目(3)「国民国家と明治維新」

(5) 指導する生徒の状況

【既習事項】

中項目(3)「国民国家と明治維新」の6時間目「帝国主義と植民地」までを学習済み。

【単元のねらい】

- 国民国家の形成の背景や影響などに着目して、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、立憲体制と国民国家の形成を理解する。
 □帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し表現することを通して、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。

【生徒の状況】

国公立大学進学希望者が多い普通科の1年生35名。年度当初のアンケートでは、中学校段階の歴史分野の学習内容については、ほぼ全員が「理解できている」と回答しているが、10名は「歴史に苦手意識がある」と回答しており、その理由を10名すべてが「暗記が苦手」としている。本格的に世界史の内容を学ぶのは全員が初めてである。

地理総合と並行して履修しており、2年次以降は地理探究、日本史探究、世界史探究のいずれかを履修する予定。

(6) 指導計画(全11時間)

時間	主題	学習内容
1時間目	1 市民革命と近代社会	■市民革命 ■アメリカ独立革命 ■フランス革命とナポレオン体制 ■ヨーロッパ諸国とウィーン体制の成立
2時間目	2 自由主義とナショナリズム	■自由主義とナショナリズム ■ウィーン体制とその崩壊 ■中南米諸国とアメリカ合衆国
3時間目	3 アジアの諸国家とその変容	■アジア諸国と対外関係 ■幕末日本の動揺
4時間目	4 明治維新と東アジアの国際関係	■明治日本の諸改革 ■東アジアの国際関係
5時間目	5 立憲制の広まり	■立憲制の定着と新しい立憲制国家 ■アジアにおける立憲制と大日本帝国
6時間目	6 帝国主義と植民地	■帝国主義とその諸原因 ■世界分割の進行と世界秩序の変容
7時間目	7 日清戦争と華夷秩序の解体 (本時) p76～p77	■日清戦争と華夷秩序の解体 ■日清戦争と東アジアのナショナリズム
8時間目	8 帝国主義諸国の競合と国際関係①	■帝国主義諸国間の対立
9時間目	8 帝国主義諸国の競合と国際関係②	■義和団戦争から日露戦争へ
10時間目	9 植民地支配と植民地の近代	■植民地の政治的・経済的支配 ■日本の植民地支配
11時間目	10 20世紀はじめの世界	■国民統合と帝国主義批判 ■国際関係の再編とアジア諸国の動向

【課題】次のア～ウの視点を踏まえたうえで、指導計画の太線で囲まれた授業について、模擬授業を行う。

ア 授業者による「本時の問い」の設定

イ 本時の授業における学習活動や学習形態

ウ 本時の授業における学習評価の見取り

※評価の3観点…①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

●面接終了後、メモ用紙とともにクリアファイルに入れて提出してください。

校種・教科等	高校・地歴 (日本史)	受審番号		氏名	
--------	----------------	------	--	----	--

『歴史総合（日本史）』 模擬授業課題

B

- (1) 日 時 令和6年7月〇日 第〇校時(50分)
 (2) 場 所 1年2組教室
 (3) 学年・学級 第1学年・2組(35名) 使用教科書 『詳解歴史総合』(東京書籍)
 (4) 単 元 名 大項目B「近代化と私たち」 中項目(3)「国民国家と明治維新」

(5) 指導する生徒の状況

【既習事項】

中項目(3)「国民国家と明治維新」の8時間目「帝国主義諸国の競合と国際関係」①までを学習済み。

【単元のねらい】

- 国民国家の形成の背景や影響などに着目して、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、立憲体制と国民国家の形成を理解する。
 □帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し表現することを通して、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。

【生徒の状況】

国公立大学進学希望者が多い普通科の1年生35名。年度当初のアンケートでは、中学校段階の歴史分野の学習内容については、ほぼ全員が「理解できている」と回答しているが、10名は「歴史に苦手意識がある」と回答しており、その理由を10名すべてが「暗記が苦手」としている。本格的に世界史の内容を学ぶのは全員が初めてである。

地理総合と並行して履修しており、2年次以降は地理探究、日本史探究、世界史探究のいずれかを履修する予定。

(6) 指導計画(全11時間)

時間	主題	学習内容
1時間目	1 市民革命と近代社会	■市民革命 ■アメリカ独立革命 ■フランス革命とナポレオン体制 ■ヨーロッパ諸国とウィーン体制の成立
2時間目	2 自由主義とナショナリズム	■自由主義とナショナリズム ■ウィーン体制とその崩壊 ■中南米諸国とアメリカ合衆国
3時間目	3 アジアの諸国家とその変容	■アジア諸国と対外関係 ■幕末日本の動揺
4時間目	4 明治維新と東アジアの国際関係	■明治日本の諸改革 ■東アジアの国際関係
5時間目	5 立憲制の広まり	■立憲制の定着と新しい立憲制国家 ■アジアにおける立憲制と大日本帝国
6時間目	6 帝国主義と植民地	■帝国主義とその諸原因 ■世界分割の進行と世界秩序の変容
7時間目	7 日清戦争と華夷秩序の解体	■日清戦争と華夷秩序の解体 ■日清戦争と東アジアのナショナリズム
8時間目	8 帝国主義諸国の競合と国際関係①	■帝国主義諸国間の対立
9時間目	8 帝国主義諸国の競合と国際関係② (本時) p79	■義和団戦争から日露戦争へ
10時間目	9 植民地支配と植民地の近代	■植民地の政治的・経済的支配 ■日本の植民地支配
11時間目	10 20世紀はじめの世界	■国民統合と帝国主義批判 ■国際関係の再編とアジア諸国の動向

【課題】次のア～ウの視点を踏まえたうえで、指導計画の太線で囲まれた授業について、模擬授業を行う。

ア 授業者による「本時の問い」の設定

イ 本時の授業における学習活動や学習形態

ウ 本時の授業における学習評価の見取り

※評価の3観点・・・①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

●面接終了後、メモ用紙とともにクリアファイルに入れて提出してください。